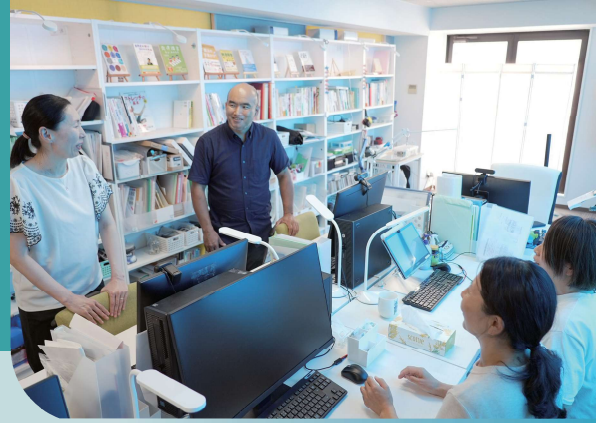


他機関との連携で 開業直後の危機を突破! 精神医療の新たな道を切り拓く



株式会社清涼社 (訪問看護ステーション・スクラム)

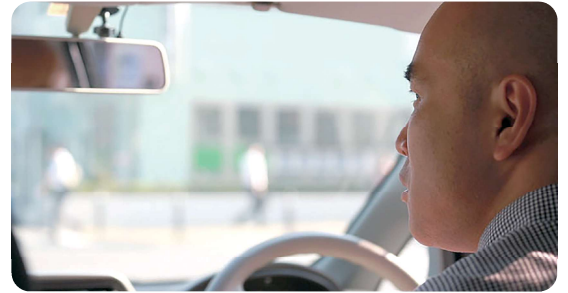
令和元年6月設立。精神科に重点を置く訪問看護ステーション。



相談のきっかけ

地域の幸せを願いスタート 開業直後に資金繰りが悪化

精神疾患に悩む地域住民と幸せを感じる訪問看護を目指して起業したが、設立当初は患者が集まらず資金繰りに苦慮。看護の専門知識はあるものの経営経験がなく途方に暮れていたが、ある施設で埼玉県よろず支援拠点のパンフレットを見つけ、設立3か月目で相談に至った。



相談内容

高金利融資が課題 体力欠如で患者数増加を待てず



民間銀行から高金利融資を受けて開業したが、患者不足と保険診療の入金遅れで資金繰りが逼迫し、令和元年9月に初回相談。令和4年12月には高金利借換えを相談。3年連続の債務超過だったが、売上増で黒字に転換した。令和6年4月の3回目相談時には経営が安定し財務問題が解消、スタッフも11名になった。現在は給与・マネジメント・人事制度などの課題に取り組んでいる。

支援結果

資金調達から人事制度まで 支援機関とも連携しスピーディに解決

- 1回目支援** コーディネーターと一緒に創業ベンチャー支援センターを訪問し、前例が少ないソーシャルビジネスの融資を相談。社会的ニーズが認められ、青梅信用金庫と日本政策金融公庫から資金調達に成功する。3か月かけて申請書類の作成などをCOが密にサポート
- 2回目支援** 銀行に提出する財務診断報告書と返済計画書の作成を支援し、融資の借換えを実現。
- 3回目支援** 人事評価制度の整備へ向け、目標管理シートや能力・成長記録の見える化を助言。今後は自己評価や面談のルーチン化、リーダー育成制度の策定をサポートしながら支援を継続中



代表取締役 菊地嘉通

開業直後、患者が集まらず資金も底をついた時に見た「埼玉県よろず支援拠点」のパンフレットがきっかけで初めて相談した。コーディネーターから「この事業を続けるべき」と励まされ、不安を乗り越えることができた。その後も困ったときはコーディネーターに相談し、今は人事考課の仕組みについてアドバイスを受けている。患者、病院、行政からの信頼を得て事業を続けられるのは、コーディネーターの支えがあったからこそである。

支援策のポイント

- ✓ 開業直後から各フェーズに合わせて支援を継続。
- ✓ 初期は書類作成や融資対応をサポートし、現在は人事相談へと移行。
- ✓ 目標管理シートなどツールを提供し、具体事例の共有を通じて相談者の目指す方向を後押ししている。



スマホからでも
見ることができます



埼玉県よろず支援拠点